

## ファイナルファンタジーのラテン語曲

今年の定演曲「Messa di Requiem」はラテン語の曲でした。一見取っ付きにくそうなラテン語ですが、案外身の回りにラテン語って転がっているものです。例えば、人気テレビゲーム「ファイナルファンタジー」シリーズの中にも、ラテン語で歌われている曲がいくつか登場します。ここでは、このファイナルファンタジーのあるラテン語曲にスポットを当てて、ちょっとした小話をしてみたいと思います。

ファイナルファンタジーで一番有名なラテン語曲は、おそらくVIIの最後の戦いで流れる「片翼の天使」でしょう。コーラスをバックにした戦いは、当時としては斬新でした。さて、昔この曲についていろいろと調べたのですが、どうにも引っかかることが。とりあえずピツレクの歌い出しを載せます。

<sup>3</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup> <sup>3</sup>  
 Ré- qui em æ- tér- nam dó-  
<sup>4</sup> <sup>5</sup> <sup>3</sup> <sup>3</sup> <sup>6</sup>  
 na é is, Dó- mi- ne

見事に歌詞のアクセントとリズムとが一致しています。基本的に、強弱アクセントを持つヨーロッパ語の歌は歌詞のアクセントと曲のリズムは合っています。一方、次のリズム譜は「片翼の天使」ですが、比べてみましょう。

<sup>2</sup>  
 És- tuans in- té- rius í- ra vè- he- ménti  
<sup>2</sup>  
 Sóns im- má- nis ét i- ná- nis  
<sup>2</sup>  
 Vé- ni, vé- ni, vé- ni- as, né mé mó-ri fá- ci- as  
<sup>2</sup>  
 Glo- ri- ó- sa, ge- ne- ró- sa

見ての通り、裏拍に歌詞のアクセントが来ていたり、結構合っていない。皆さんも、色々な歌で歌詞のアクセントとリズムを比べてみると面白いと思います。昔の定演曲や、歌謡曲など、題材は身近に転がっているものですよ。